

集団授業における
知的障害のある児童生徒の情報活用能力の育成

☑️児童生徒一人一人の発達段階と障害特性に応じたアプローチが不可欠。

☑️情報モラルに関する段階的な指導も必要。

👉ICT機器は表現の幅を広げ、社会参加においても有効なツールとなり得る。

☑️プログラミング的思考の育成

[分解]

課題を段階化すること＝より理解しやすいように分割すること。例えば、料理を作るという課題を「材料を準備する」「調理する」「盛り付ける」といった段階に分ける。

[組み合わせ]

分割した要素を組み合わせて、全体を構成する方法を考えること。例えば、段階分けした料理の手順をどう組み合わせれば目的の料理が完成するかを考える。

[抽象化]

具体的な事柄から本質的な部分を抜き出し、より一般的な概念として捉えること。例えば、複数の料理のレシピから共通する調理法や手順を抽出する。

[一般化・汎用化]

特定の状況に当てはまる解決策を、より一般的な状況にも適用できるようにすること。例えば、ある料理のレシピを、他の料理にも応用できるように汎用化する。

【目的】

- ☑必要な情報を正しく選択し、それを活用する力を身に付ける。
- ☑活用→発信する力を身に付ける。

1 段階的な目標設定と個別最適なアプローチ

☑ 発達段階に応じた目標設定

 情報活用能力は、個人差が大きい。

- 複雑な操作は、簡単なステップから段階的に指導する。
- できたことを具体的に褒め、成功体験を積み重ねることで、自信と意欲を育む。
- 児童生徒が興味・関心をもつテーマと情報活用を結び付けることで、動機付けにする。

2 具体的な活動を通じた情報活用能力の育成

☑情報機器の基本的な操作

- ・電源のオンオフや音量調整など、日常的に使用する機器の基本操作ができるように。
- ・タブレットの起動・終了、アプリの開閉、文字入力（ローマ字入力・フリック入力など、生徒の実態に応じた方法）などができるように。

☑情報収集の体験

- ・画像検索
- ・動画視聴
- ・天気予報や時刻表の確認、情報の整理など
- ・写真や動画の撮影と共有
- ・デジタル絵日記

☑プログラミング的思考の育成

- ・ 論理的な思考力や問題解決能力を養う。
- ・ 「こうすると、こうなる」という因果関係を体験的に理解することで、情報処理の基礎的な考え方を身につけます。

2 具体的な活動を通じた情報活用能力の育成
・参照：情報活用能力チェックシート

3 情報モラルと安全教育
・参照：情報活用能力チェックシート

4 教員の専門性の向上とチーム連携

ICT活用研修の充実

- ・特別支援教育におけるICT活用に関する専門知識を深めるための研修を実施する。

※基礎的なスキルの習得を目的とする研修も必要。

ICT支援員との連携

- ・専門的なアドバイスや機器の活用方法、トラブル対応に関する支援を受ける。